

第24回研究会現地検討会討論要旨

第24回研究会は、昭和53年9月6日、7日に渡って、大雪区域畜産基地の見学および現地検討会として開催された。6日に畜産基地を見学し、層雲峡温泉「ホテル朝陽」に一泊し、翌7日に同所において現地検討会が行われた。検討会は西勲氏（道庁専門技術員）を座長とし、進藤重信氏（農用地開発公団）、手塚寛氏（上川町農林課）、川上安雄氏（上川町農協）の話題提供と参加者による討論で進められた。以下の要旨は討論からとりまとめたものである。

座長：上川畜産基地は、49～50年に計画され、51年に着工、本年53年完了されたものですが、それに つきまして、最初に進藤さんの方から施設関係を中心に、お話し願いたいと思います。

進藤：計画段階では、畜舎はルースバーンと聞いていたが、実際はフリーストールとの中間的なもの となっています。これは事業費その他の事や、肉牛には金をなるべくかけないという前提的なもの からこうなったと思われます。又、糞尿処理については、堆肥方式を考えていたが、それがスラリー 方式に変わっています。これも敷わらの問題のためにこうなったと考えられます。又肉牛が外国種 であるため、パドック等を丈夫にする必要がある等、種々の問題があったが、詳しい事は町の関係 の方からの発言によって明らかになるとと思います。

座長：ありがとうございます。今、町の方の発言をということがありましたので、手塚さんに施設 関係に絞ってお話し願いたいと思います。

手塚：施設の使用、管理についてお話ししたい。現在のこの方式を選んだ理由としては、敷料の関係 でこのようになったのですが、問題点は冬期間結露現象があらわれ、牛に下痢などの悪影響が発生 していることです。

又パドックの関係では、事業費等の関係で広さが適確ではないのではないかと現在感じており ます。今後いろいろな地区で肉牛の飼育があると思いますが、パドックの広さだけでも十分検討す る必要があるのではないかと考えています。

もう一点は、上川町が外国種を肉質の関係あるいは飼いやすいということで選びましたが、分 娩については難産が非常に多く約7割がそうであります。これは牛をカナダ、アメリカから買って きたが、それらの国との気候、環境の違いによるものと考えております。最後に、草地と施設が離 れているため、作業効率が悪く、それに伴う経費もかかるという問題点もあります。経営上のこと につきましては、農協の川上さんからお話しがあると思います。

川上：13戸の参加農家のうち、7戸が水田転換、3戸が酪農からの転換、乳牛の育成からの転換が3 戸であります。参加の動機については、町、道、農協からの勧誘によって参加を決意されたもので す。

施設は本年度完成ですし、素牛についても計画頭数は本年で全て導入されているので経営に入 っていく中で問題点を上げ、道の方に要望を出したわけですが、以下それらについて述べていきたく と思います。まず運転資金についてですが、共済をのぞいても繁殖の方では700万ほど必要にな ってくるし、共同肥育のものでは常時1億5,000万位が必要になってきます。これらのことから試

算すると繁殖農家が成り立つためには、素牛の単価を生体kg当り850円位にもっていかないと成り立たない、これを共同肥育にもっていかなくてはならないので、1,300円以上の原価はどうしてもかかってしまうので価格の安定対策という問題が出てきます。

もう一つは当初繁殖素牛として雌を20万で売るという話であり、畜産基地は外国種でいくという話であったが、上川北部と大雪は洋種であるが、それ以外の地域は黒毛和種なり褐毛和種ということであるので肥育以外では洋種は売れていかないという問題点もあり、道の方に他の地域においても洋種の導入をはかることを要請している。

技術対策では、下痢、難産などの問題が出てきているのでみなさんの御指導をいただきたいと思っております。ここに事故のまとめた数字があるので申し上げておきます。149頭分娩して、下痢で15頭死に、凍死3頭、死産3頭、分娩直後に死んだもの2頭、奇形1頭、スラリーピットに落ちて死んだもの1頭、その他3頭となっています。

座長：ありがとうございました。以上お聞きしたことについて、また昨日の見学について何か質問がありましたらどうぞ。

広瀬（北大）：当初の計画では混牧林経営という計画であったと思いますが、それがどのように進展しているのか、またこの程度の繁殖規模で今の経営面積以外に混牧林に依存する必要があるのかどうかを伺いたい。

川上：当初1,000haを計画したが、問題点としてクマイザサの問題があり、広大な面積にバラ線をはって効果が上がるかどうか、疑問であった。もう一つは調査段階で最適地は国有林であったが、使用できないということになり、越路地区、旭ヶ丘地区の町有林300haが今年設置されることになっており、条件がよければ混牧林を使わしてもらいたいと考えております。

座長：どうもありがとうございました。他にご意見はありませんか。

小竹森（北大）：事故率が高いということですが、150頭以降のものについてはどうなっていますか。

川上：大分良くなっております。

小竹森（北大）：雌牛が売れない時の対策は考えておられますか。

川上：生体市場の方に持っていってもどうしようもないので肥育場にもって行って、肥育をして出荷することを考えています。

小竹森（北大）：計算によると肥育牛枝肉が1,300円以上でないと言われるが、それなりの肉質を持っているものと思うがどうですか。これだとホルスタインよりも高いと思いますが。

川上：現在取引先として引合いが来ているのが2箇所（ダイエー、都民生協）あり、それなりに話をつけているが消費者の肉質に対する希望等に関しても、また肥育に関しても畜種が外国種であるのでどの程度食べさせて出荷したら良いのかまだはっきりしないのが現状ですが、今後はバイパス流通にしろらい生産費を出来るだけ安くおさえるように努力したいと考えています。

小竹森（北大）：最近500kgのヘレフォードを解体したが、枝肉からの歩留りが78～79%と高い値を得たので価格交渉をする場合の参考にして欲しい。

座長：どうもありがとうございました。他にご意見は。

所（滝川畜試）：繁殖について伺いたいですが、交配はどのようにしているのか、また分娩の計画について

て伺いたい。

川上：計画は季節分娩で、春に70%、秋に30%です。ただ現在生まれているのは、昨年カナダで妊娠したものです。一昨年アメリカから導入したものについてはこちらで種つけしており、人工授精を一部使っておりますが、あとはまき牛です。

杉山（畜産会）：施設について伺いたい。昨日見学したが、施設面積、パドック面積が狭いし、それと同時に育成牛の施設、分娩房が必要になると思うが、これらの施設をどのように考えておられますか。

川上：分娩については当初の予定では、十分であるという計画であったが、今ご指摘いただいたように実際は狭く、また敷料がないため分娩をさせるのが大変なので、分娩牛舎を設置している所もあります。育成牛については、それも狭くなると考えられるが、今の所どのように設置するか具体的なものはまだありません。

杉山（畜産会）：事故を防ぐのは家畜の住みやすい環境を確保することにあると思う。従って家畜に対する十分な観察を行う必要があるが、この事故の内容をみるとほとんどが主要管理施設の不備によるものと考えられるので、今後改善の余地は十分にあると思います。

座長：どうもありがとうございました。

所（滝川畜試）：結露のことについて伺いたいが、1～2月の畜舎内の最低気温はどの位ですか。

石田（現地農家）：詳しい畜舎内の温度資料はもっていないが、2月以降は毎朝スクレーパが氷結するので、つるはしで30分～1時間かかって動かすような状態です。

座長：新酪を指導されている伊藤さんに結露のことを伺いたいが。

伊藤（根釧農試）：冬期間になると毎日おこるが、ただ同じ様式の畜舎においても管理する農家によってかなり状態が異なるようです。

座長：どうもありがとうございました。他にご意見は。

五十嵐（根釧農試）：ヘイレージの運搬には何を使っていますか。

進藤：トラックで行っています。

座長：最後に北農試の大森部長に感想を述べていただいて終りにしたい。

大森（北農試）：給飼と発育の関係など興味ある問題が出されたと思います。全体として繁殖部分の施設は立派になっているが、その有効な活用法などについてはいろいろな問題があると思います。大きな課題としては、寒冷地における種々の問題点があり、今後の解決が望まれます。また立地上やむを得ないことと思いますが、繁殖基地と育成放牧地が離れており、この辺りをどのように克服すべきかが大きな問題であると感じた次第です。

座長：どうもありがとうございました。所定の時間も参ったようですので、この辺で討論を終らせていただきます。（拍手）